

て鶴を射て、刺留し劔なりといふ、獅子王劔は、其賞として賜へる劔なりといへり、廻氏其末裔にて、世々希代の珍奇として寶藏せしに、寛永十三年、廻次郎兵衛頼次代に、當社へ奉納せり、△御詠歌二首、大慈公御寄附、△普門品一軸、今公御寄進、

○諸末社 陰陽社、陰陽二體を安道す、△神貫大明神、石神大明神二社、△荒神社、△霧島權現社、以上皆社庭にあり、

○神木 社庭にあり、木の實と名く、往古は大樹なりしが、今は植次にて小木なり、

小松大明神社 地頭館より子 佳例川村にあり、奉祀九座 坐各木 傳へて小松内府重盛を祭るといふ、其餘の神名、及び勸請の時を知らず、當社は此村の生土神とす、例祭二月初酉日、十一

月初申日、社司坂元氏なり、社地清幽、樹木陰森として、社邊の幽谷に湧泉あり、流れて川となり、國分敷根兩郷の境に出て、海に入る、

佛 寺

石上山平等院不動寺 地頭館より寅 廻村にあり、本府大乘院の末にて、眞言宗なり、本尊不動明王、開山歡能法印、遷化年月 開基年月詳かならず、當寺は此邑の祈願所なり、

永泰山大安寺 地頭館より卯 廻村にあり、上野州碓氷郡浚閑

村長源寺 天明派、下 の末にして、曹洞宗なり、本尊十一面觀音

開山勝嚴祖、幢和尚なり、天文元年、己未、六月、示寂、勝嚴は、長源寺第五世、天

眞禪師、五哲の内、希明清良禪師の法嗣なり、當寺は、初め肝付

河内守兼久が開基にして、高山邑にありしを、第二世包山樹

心和尙、故ありて、當邑の大廻に移せり、かくて永祿四年、七月、